

曉子 令和5年11月度特別作品

防府 曉子

防府は古代、周防国の国府が置かれた所で、国衙跡などの遺跡や国分寺、阿弥陀寺等の名刹が現存しています。また、日本最初の天満宮の町としても知られており、江戸時代は毛利家ゆかりの地として栄えました。そして、俳人山頭火の生地でもあります。秋の一日、防府を廻りましたが、事前に歴史などの学習をしておけば良かったと、すこし後悔もしました。

山頭火の墓地に聞ききたる昼の虫

岩山へ真つ直ぐに伸び稲の道

秋日和藟蒨供へ地藏堂

草の花ここは周防の国衙跡

秋天に鸞の舞ひたる国分寺

色草を踏んで石風呂覗きをり

御神牛の頭に止まり秋あかね

天満宮の絵馬層なしてつくつくし

紅萩や砂利踏む音の毛利邸

望東尼の歌碑へ素秋の海の風

《作品鑑賞》

あざみ

防府地方は「西の京」と言われるほど名所旧跡が多く、良い所を吟行されたご様子。私も行ったことがありますので、いろいろと思いつきました。どの句も、季語の選び方がとてもお上手です。作者の詩心や、表向きのきらきらではなく内に抱えられたお力のすごさに感心しながら読ませて頂きました。

山頭火の墓地に聞ききたる昼の虫

山頭火は、魂のふるさとを求めて漂泊の生涯を送られた自由律の俳人。「昼の虫」の季語はさすがだと思いました。

草の花ここは周防の国衙跡

草花に囲まれた静かなたたずまいを句にされていますが、栄えていた頃の昔の人の息吹が伝わってくる様です。

秋天に鸞の舞ひたる国分寺

天満宮の絵馬層なしてつくつくし
天満宮は受験の神様として有名であり、絵馬を掲げる親子の姿が目に見えます。

望東尼の歌碑へ素秋の海の風

素秋の風のかかわりが深く、思わず耳をそばだてたくなるような季節の移ろいや、微妙な気配の伝わりとても良い句です。